

接続詞「それが」の意味用法について

—記述的に—

松浦 恵津子

1. はじめに

「それが」は、国研(1951)で「接続詞的用法」としてあげられ、青木(1973)で「接続詞的語彙」、市川(1978)で「接続詞」としてあげられているように、次のような用例をみることができる。

- 1) 以前、このあたりを、夜に通ったが、暗い道だった。それが、いまは街灯が立ちならんで、通りは昼間のようにあかるかった。(まだ終わらない)
- 2) 「預かり証の控えはお持ちですか？」
「それが、財布ごと落ちとしちゃって。すみません」(ジーンズをはいたカカシ)

1) の2文目は「街灯が」「通りは」と主語があるので、「それが」は独立成分の接続語、品詞としては文と文を接続する接続詞と認められる。

2) の「それが」も独立成分である。品詞としては、相手の発話を受け、話し手自身の発話につなげる接続詞で、応答詞的な性格ももっている。

2. 研究の目的

接続詞「それが」が、前後をどのような意味関係で接続しているかを全体的にみることを目的とする。接続詞「それが」については先行研究もいくつかあるが、そこでふれられていない用法もとりあげる。

用例は使用例が少ないので、時代的には広くとり、明治以降の約650例をもとに考察した。用例の出典は、CD-ROM版「明治の文豪」「大正の文豪」「新潮文庫絶版100冊」「新潮文庫の100冊」の翻訳物を除いた全作品、その他の小説・新聞記事・雑誌である。

3. 先行研究

接続詞「それが」の前後の意味関係に関するものとして、次のような先行研究があげられる。

- ①市川(1978) — 「それが」を「逆接」の「意外

という項目に入れている。

- ②浜田(1993) — 「それが」は、「継続的变化」を描写する文脈に頻出する。また、「重要な情報を追加する用法」「相手の発話を受け、相手の期待に反する内容を続ける用法」などをあげている。

- ③庵(1996) : 「それが」は、「予測裏切りの関係」を表示する。

- ④赤羽根(2001) : 「それが」は、後件を前件とは甚だしく異なる事態として位置づけるとし、これを「落差の接続」と呼んでいる。

これらの先行研究は、「それが」の性格を大きくみるタイプのものであるが、より詳細に性格の異なるものに分けて、「それが」の用法をみることができる。本研究では、先行研究でとらえていない用法も含め、全体的かつ詳細に用例を記述する。

4. 「それが」の意味用法

ここでは、次の二つの場合にわけて用例を分析した。表1で、一つは「A 前後が同一話者の場合」(→用例1 約300用例)で、二つ目は「B 相手の発話を受け、話し手自身の発話につなげる場合」(→用例2 約350用例)である。今回は、時間の関係上、前者についてのみ発表する。

4.1 前後が同一話者の場合

4.1.1 対比関係

①変化の対比関係

用例1) [前出]

- 3) 生来せっかちで、以前なら人と待ち合わせしても、十分間と待たなかった。それが、今では「もう二十分待とう」と、ゆとりも持てる。

(読売新聞)

「それが」の前後で、一つのものごとの変化前と変化後の描写がなされる。時間的順序は、前件—後件である。用例1)では、前件の「以前」と後件の「いまは」、前件の「暗い」と後件の「あかるかっ

表1 「それが」の前後の意味的關係

A 前後が同一話者の場合 約300例	
(1) 対比關係 186	① 変化の対比關係 用例数 171
	② 並立的対比關係 15
(2) 逆接關係 72	① 予想・期待・希望が実現しない 32
	② 当然のことが実現しない 18
	③ 因果關係が成立しない 16
	④ 意図・目的が実現しない 6
(3) 累加關係 47	
B 相手の発話を受け、話し手自身の発話につなげる場合 約350例	
(1) 「質問・確認要求 - 応答」の關係 234	
(2) 「はたらきかけ - 断り」の關係 35	
(3) 「心情や見解、事実を表す発話 - 説明添加」の關係 59	
(4) 応答詞としての性格が強いもの 20	

た」のように、前件と後件に対応する部分があり、前後件を対比させている。話者の意図は対比にある。

次の例のように、後件で突然のできごとが起こったことを述べるものもある。ある状態であったところにできごとがおこるといふ変化である。

4) [駿介には、志村や哲造の消息がわからなかった。] その頃は志村ももう駿介の視界にはいなかったし、もしいたとしても志村と哲造との思想上の隔りから、志村を通して哲造を知ることにも出来なかったであろう。それが駿介が高等学校の二年の時、ある日突然哲造が訪ねて来た。(生活の探求)

②並立的対比關係

前件と後件を対比させる。前件と後件の時間的前後關係はない。次の例では、被疑者の人権について、アメリカと日本の場合を対比させている。

5) 「アメリカでは、[中略] 密室の取調は心理的強制を受けるからいけない、黙秘権と弁護人の尋問立会権・選任権を告げ、被疑者が明示の意思表示をもって弁護人の立会を放棄しない限り弁護人が来るまで取り調べてはいけないことになっています。それが日本じゃ、いきなり密室に連れこみ、弁護人もなしで、やいのやいのと責めたてるんですからね」

(湿原)

6) 何もかも扁平で、市街地図のように出来たロスアンジェルス、上を向かなくても、空はずっと眼前に展がっている。それが、このニューヨークの空は、高い建物の間にちょこっと、

建物の間に走っている道路と同じ形をしているのだから。(過越しの祭)

4.1.2 逆接關係

①予想・期待・希望が実現しない

前件である人物や語り手の予想・期待・希望が述べられ、後件でそれに反する結果が述べられる。次の例では、予想に反する結果が後件に述べられている。

7) 下人は、始めから、この上にいる者は、死人ばかりだと高を括っていた。それが、梯子を二三段上って見ると、上では誰か火をとぼして、しかもその火を其処此処と、動かしているらしい。(羅生門)

次の例では、期待に反する結果が後件に述べられている。

8) そして、クリスマスの休暇を利用して、[良人の] 宮村がこの雪のなかで休息するつもりで来てくれたならば、ルネ夫人にも紹介して、療養所の友人たちにも良人の偉さを見てもらいたいと、秘かに考えて待っていた……

それが、もう今日来るか明日来るかと心待ちにしているところになって、突然来れなくなったという通知を受けた。(巴里に死す)

②当然のことが実現しない

前件で当然であることや義務が述べられ、後件でそれが実現しないことが述べられる。

9) 〈本来なら——〉と、西沢はおもった。エレベーターを占領した夫婦連れやアベックのように、妻の京子とともに幸せそうな表情で、

食事に向うこともできたはずなのだ。それが、二人とも人生の歯車が狂いはじめた。

(社命誘拐)

③因果関係が成立しない

前件を原因・理由としたとき、予想される順当な結果に反する事柄が後件にくる。次の例は、「和歌山市内に“紀陽銀行が危ない”という貼り紙があったが、なぜ大阪市内で取り付け騒ぎが起きたか」という文脈である。

10) 当日、和歌山市内のあちこちの電柱や壁に“紀陽銀行が危ない”という貼り紙があったことが判明したものの、それがなぜ和歌山でなく大阪市内の支店に集中的な取り付け騒ぎが起きたかはわからなかった。(週刊ポスト)

10) のように、「それがなぜ(どうして)」となるものが目立つ。

④意図・目的が実現しない

前件で意図・目的が述べられ、後件でそれが実現しなかったことが述べられる。

11) 彼のところは別居までいって、もう離婚するつもりだったんだって。それが、別の女のことが記事になって出ちゃったもんだから、奥さんが意地になって、離婚しないって気持ちを変えたらしい。(フォーカス)

4.1.3 累加関係

前件に関する情報を後件に加えるものである。次は、状態・状況の詳細を加える例である。

12) 稽古は猛烈峻厳をきわめ、いかなる門人と

いえども容赦なく打ちすえ、叩きのめす。それがまた一言のはげましの声すらなく、びしびしとやっつてのけるのだから、たまったものではない。(剣客商売)

12) は、「それがまた」全体を「しかも」でおきかえても言える例である。

13) 「……実はこういうわけだよ、あのひとを宿屋に残して僕だけが」

戸田先生はぐっと唾液をのみこんだ。「ひと足さきにかえってきたんだよ、それが君、酒と賭博でくらしているうちに、どうにも身動きがとれなくなってしまったんだよ、〔中略〕 到頭二人はわかれわかれに生きなけりゃならない人間だということがやっつとわかったんだよ、……」(人生劇場 愛欲篇)

13) の「それが」は、「というのは」でも言える例である。

4.2 相手の発話を受け、話し手自身の発話につなげる場合(省略)

5. 他の逆接の接続詞と「それが」

佐竹(1986)は、シカシ・ガ・ケレドモ・ダガ・デモ・ダケト等いわゆる逆接の接続詞(「それが」を含んでいない)を、前件と後件とを否定的に関係付ける接続詞と規定し、これらの接続詞の前後の意味関係として、表2の左列のようなものをあげている(詳しい説明は省略)。

佐竹は、シカシ類の接続詞は「前件に関する何

表2 シカシ類と「それが」

シカシ類 (佐竹1986)	それが
一 対比関係	(1) 対比関係 ② 並立の対比関係
二 否定的継起関係	(1) 対比関係 ① 変化の対比関係
三 否定的累加関係 ① 前件とは別の側面・見方 ② 前件についてのイメージの否定 ③ 前件についての否定的・批判的な説明 ④ 前件の評価に対して対立的な評価	(3) 累加関係
四 逆接関係 ① 意図・目的が実現しない ② 希望・期待が実現しない ③ 当然の事柄が実現しない ④ 因果関係が成立しない	(2) 逆接関係 ① 予想・期待・希望が実現しない ② 当然のことが実現しない ③ 因果関係が成立しない ④ 意図・目的が実現しない
五 話題をかえる	なし

かを否定するものとして後件をとらえたときに用いられる」と述べている。このときの「否定」とは、命題の否定だけではなく、「紙巻たばこならいい、しかし葉巻はいかん」（「一対比関係」の例）の「いいーいかん」のような単語の意味レベルでの「肯定ー否定」や、前件に対する批判的な判断を後件に加えるというものも含んでいる。

表2の右列は「それが」の前後の意味関係である。「それが」は大きくみてシカシ類と同じ類の接続詞である。シカシ類と「それが」を比べてみると、対比関係と逆接関係は、細かい点では異なりがあるが、大きくみれば同様の用法をもつといえる。しかし、「それが」の「(3)累加関係」の用例にはシカシ類の「三 否定的累加関係」の用法に入らないものがあり、両者の違いは大きい。シカシ類と同様の用法もあるが、用例12) 13) のような「しかも」や「というのは」などに近いものもある。

6. 今後の課題

「それが」の累加関係について、他の逆接の接続詞との違いを、次の①②についても考慮に入れながら考察することが今後の課題である。①「それが」が表現する情意性¹⁾、②前後の文のモダリティ制限²⁾。

注

1. 先行研究では、「意外」「いいよどみの効果」「驚き・不都合・無念さ・非難」などの情意性を表すとされる（市川1978・浜田1993・赤羽根2001）。
2. 先行研究では、「それが」は、願望や意志、推量、働きかけなどのモダリティ性をもつ前後件をとることができないとされる（浜田1993・赤羽根2001）。

参考文献

- 青木伶子（1973）「資料1 接続詞および接続詞的語彙一覧」『品詞別日本文法講座6 接続詞・感動詞』明治書院
- 赤羽根義章（2001）「接続助詞の形態と対応する接続語—『けれども、そうするけれども、だけれども』『が、そうするが、だが』『それが』—」『宇都宮大学教育学部紀要』第51号 第1部
- 庵功雄（1996）『「それが」とテキストの構造—接続詞と指示詞の関係に関する一考察—』『阪大日本語研究』8 大阪大学文学部日本語学講座

- 石垣謙二（1955）「主格『が』助詞より接続『が』助詞へ」『助詞の歴史的研究』岩波書店
- 石黒圭（1999）「逆接の基本的性格と表現価値」『国語学』198国語学会
- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 岩澤治美（1985）「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56日本語教育学会
- 大野晋ほか（1970）「助詞の機能と解釈」『国文学 解釋と鑑賞』35-13 至文堂
- 北野浩章（1989）「『しかし』と『ところが』—逆接系接続詞に関する一考察—」『言語学研究』8 京都大学
- 国立国語研究所（1951）『国立国語研究所報告書3 現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』秀英出版
- 佐久間まゆみ（2002）「接続詞・指示詞と文連接」『日本語の文法4 複文と談話』岩波書店
- 佐治圭三（1970）「接続詞の分類」『月刊文法』2-12明治書院
- 佐竹久仁子（1986）『「逆接」の接続詞の意味と用法』宮地裕編『論集日本語研究（一）現代編』明治書院
- 高橋太郎ほか『日本語の文法』（2005）ひつじ書房
- 多門靖容（1992）「文章の談話分析—『しかし』前後件の後続展開調査—」『日本語学』11-3明治書院
- 塚原鉄雄（1968）「接続詞」『月刊文法』1-1明治書院
- 塚原鉄雄（1969）「連接の論理—接続詞と接続助詞—」『月刊文法』2-2明治書院
- 西原鈴子（1985）「逆接の接続における三つのパターン」『日本語教育』56
- 浜田麻里（1995）「トコロガとシカシ：逆接接続語と談話の類型」『世界の日本語教育』5 国際交流基金
- 浜田麻里（1993）「ソレガについて」『日本語国際センター紀要』第3号 国際交流基金日本語国際センター
- 比毛博（1989）「接続詞の記述的な研究」『ことばの科学2』むぎ書房
- 松村明編（1969）『古典語現代語助詞助動詞詳説』學燈社
- 宮地裕（1983）「二文の順接・逆接」『日本語学』2-12明治書院
- 森岡健二（1973）「文章展開と接続詞・感動詞」『品詞別日本文法講座6 接続詞・感動詞』明治書院

用例出典

- 「まだ終わらない」陳舜臣1964／「ジーンズをはいたカカシ」水番1994／『読売新聞』1997／「生活の探求」島木健作1937／「湿原」加賀乙彦1985／「過越しの祭」米谷ふみ子1985／「羅生門」芥川龍之介1915／「巴里に死す」芹沢光治良1942／『フォーカス』1997／「社論誘拐」小林久三1983／『週刊ポスト』1997／「剣客商売」池波正太郎1973／「人生劇場 愛欲篇」尾崎士郎1935／